

鹿児島県さつま町との交流

5月24日（金）、瀬戸ひとみさん（間山）ら鶴田町のViC ウーマン（地域のよりよい「農林水産業と暮らし」を指揮する女性リーダー）のメンバー10人が、町が友好交流協定を結ぶ鹿児島県さつま町の町内会「むつみ会」から贈られたヒガンバナの球根の植栽を行いました。当日は天候にも恵まれ、植栽場所である津軽富士見湖の堤防にある花壇では、参加者たちが丁寧に球根を植えていました。

昨年からはじめられたこの試みは、2017年秋にむつみ会メンバーらがりんごの収穫応援で鶴田町を訪れた際に、さつま町職員でもある寺脇伸治さんと瀬戸さんとの間に交流が生まれ、寺脇さんが披露したさつま町終野の「ひがん花まつり」の写真を見て、瀬戸さん自身も鶴田町に植えたいと頼み植栽が実現しました。昨年に引き続き、今回も150キロの球根を譲り受け、当日は約100キロの球根と、ヒガンバナが咲く秋までを彩るペゴニア約250本を植えました。

これまでのさつま町との交流は、行政同士で行われることが多く、一例としては、さつま町からアジサイの株を譲り受け、富士見湖パーク内に植栽を行いました。今回の植栽は町民同士が主体となって行われており、新たな交流の始まりと言えます。

相川町長は、「春はサクラ、夏はアジサイ、そして新たに秋はヒガンバナと、さつま町との交流を縁にして、町の魅力をさらに増やしていきたい」と話していました。

今回の植栽の中心になった瀬戸さんは、「昨年の植栽では無事きれいに咲いてくれて、写真をむつみ会の人たちに送ったら喜んでくれた。ヒガンバナはネズミやモグラなどの害獣よけとしての効果もあり、農業が盛んな鶴田町でも活用していけたらと思う。他の集落の人たちにもこの取り組みに賛同してもらい、ゆくゆくは鶴田町の名物のひとつとなり、鶴田町でもひがん花まつりが開催できたらうれしい。」と話していました。今回植えた球根は、早いもので今年の9月ごろに咲く予定で、植栽の参加者は秋の開花が今から待ち遠しい様子でした。



△参加者は協力して球根を大事に植えていました。



△昨年9月ごろに咲いたヒガンバナ



サマージャンボ7億円

（1等5億円・前後賞各1億円合わせて）

サマージャンボミニ5,000万円

（1等3千万円・前後賞各1千万円合わせて）

この宝くじの収益金は市町村の明るく住みよいまちづくりに使われます。

7月2日🔥2種類同時発売!

発売期間 7/2🔥～8/2🔥
抽せん日 8/14🔥

公益財団法人青森県市町村振興協会

各1枚 300円